

# af News

## 平成24年度 研究助成金贈呈式

旭硝子財団は、6月12日午前、関係者列席のもとに経団連ホールにて研究助成金贈呈式を開催しました。田中理事長による開会の挨拶、中西八郎選考委員長による選考経過の説明に続いて、理事長から助成金受領者の方々へ贈呈状が手渡されました。

引続き、渡邊淳平・文部科学省研究振興局学術研究助成課長よりご祝辞をいただきました。

最後に、助成金受領者を代表し



て森章・横浜国立大学准教授からご挨拶があり、贈呈式を終えました。その後、別会場で懇親パーティーが行われました。

本年度、国内で新規に採択された助成研究は80件、これに過年度からの継続分21件を合わせ、国内助成総額は2億6,100万円となります。

本年度に新規採択された助成研究については、当財団のホームページ[研究助成→採択一覧]をご参照ください。





# 2012 旭硝子財団 助成研究発表会

8月1日、ホテルグランドヒル市ヶ谷において、助成期間を終えた研究助成プロジェクト83件の成果発表、ならびに助成期間中の大型研究助成プロジェクト9件の中間発表が行われました。発表者をはじめ、現在研究助成を受けている研究者や当財団の選考委員、ご来賓など、多くの関係者にご出席頂きました。

開会にあたり、田中理事長の挨拶に引き続き、宮崎照宣選考委員長（東北大学教授）から開催にあたっての趣

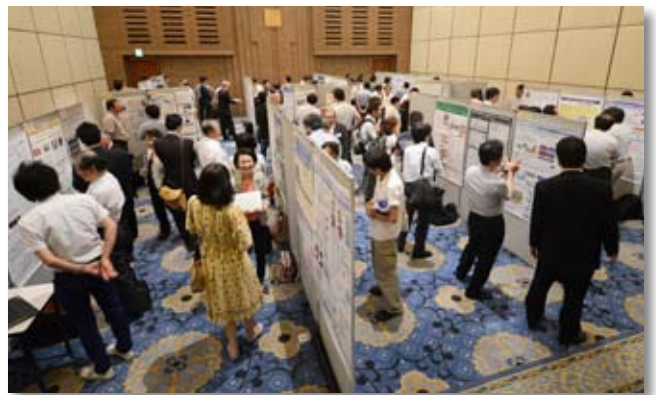
旨説明が行われ、その後、専門分野ごとに夕方まで3回のセッションに区切って、3分間スピーチとポスターによる研究発表が行われました。

それぞれのポスターの前では、専門分野の異なる研究者が集まって活発な意見交換が行われました。今までの成果についてだけでなく、今後どのような方向に研究を発展させるべきかといったことについて幅広くディスカッションが行われ、新たな学術協同関係が生まれるなど、大変に有意義な場となりました。

発表終了後には同じ会場で懇親会が開かれ、参加者の方々による交歓が行われました。



3分間スピーチ発表会場



ポスター発表会場

## 海外研究助成金贈呈式ならびに成果発表会

### タイ・チュラロンコン大学(CU)

7月3日、チュラロンコン大学近くの Montien ホテルにて、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。田中理事長と Pirom 学長からのからの挨拶に続いて、今年度の助成対象者13名に贈呈状の授与が行われました。Thanawat Jarupongsakul 教授による治水に関する記念講演に引き続き、2つのセッションに会場を分けて、合計9件の研究成果が発表されました。



Thanawat 教授による Keynote Lecture

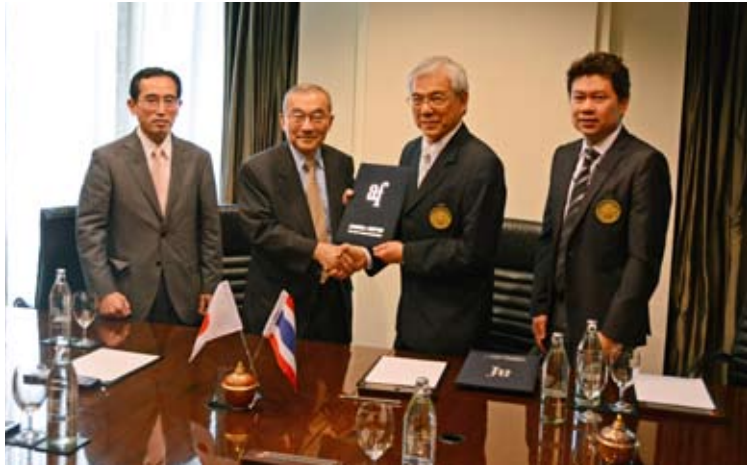


贈呈式会場にて助成金受領者と Pirom 学長、田中理事長



## タイ・キングモンクット工科大学トンブリ校 (KMUTT)

7月3日、当財団からの新たな助成先であるキングモンクット工科大学トンブリ校の Sakarindr 学長と田中理事長との間で3年間の研究助成プロジェクトの覚書が取り交わされました。翌4日には、同校で研究助成金贈呈式が開催されました。Bundit Thipakorn 副学長による開会の挨拶、Bundit Fungtammasan 副学長による選考経過の説明、田中理事長からの挨拶に続いて、助成対象者6名に贈呈状が授与され、同じ会場で研究計画に関するパネル発表も行われました。



研究助成プロジェクト覚書の取り交し  
[左から鮫島専務理事、田中理事長、Sakarindr 学長、Anak 准教授]



贈呈状を授与する  
田中理事長



贈呈式会場にて助成金受領者と、KMUTT ならびに旭硝子財団関係者

## インドネシア・バンドン工科大学 (ITB)

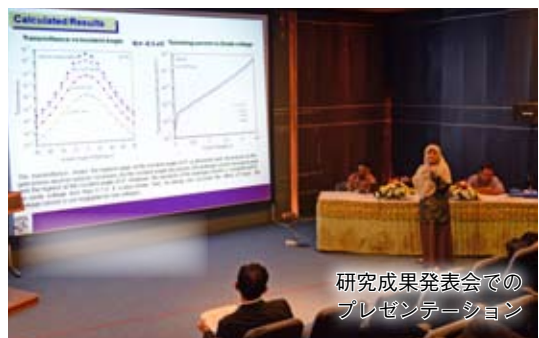
7月6日、バンドン工科大学の講堂において、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。学長の Akhmaloka 教授、鮫島専務理事の挨拶に続いて、助成対象者16名に贈呈状が授与されました。引き続き、研究期間の終了した16件のプロジェクトの研究成果発表が行われました。



助成金受領者と Akhmaloka 学長、鮫島専務理事



鮫島専務理事による贈呈状の授与



研究成果発表会での  
プレゼンテーション



# ブループラネット賞歴代受賞者共同論文

本年、ブループラネット賞の創設20周年を迎えるにあたり、歴代受賞者による共同論文の作成が提起されました。

2月8日から10日にかけてロンドンで開催された事前会合では、第1回受賞者の真鍋淑郎博士を含む14名の受賞者がそれぞれに執筆した論文を基に討議が行われ、共同論文「環境と開発への課題：緊急に成すべき行動」が完成しました。最終日の2月10日には記者会見を開き、受賞者を代表して英国のロバート・ワトソン博士が12項目のキー・メッセージを明らかにしました。

共同論文は2月20日にナイロビで開催された第12回国連環境計画 (UNEP) 管理理事会特別会合本会議においてワトソン博士から発表され、サイドイベントでは、博士を含む3名の受賞者と出席者による討論会が開催されました。

また、3月にはロンドンで開催された環境関連学会の国際的統合会合となる Planet Under Pressure においてもワトソン博士による講演が行われました。6月17日にはリオデジャネイロで、本年度ブループラネット賞の受賞者記者発表に続いて、ワトソン博士らによる共同論文についての講演会と質疑応答が行われました。

この共同論文については、当財団のホームページ[トップページ右側のバナー]をご参照ください。



## 2月8-10日 ロンドンでの事前会合と記者会見



受賞者会議



記者会見

## 2月20日 UNEP 本会議での発表とサイドイベントでの質疑応答



本会議場で発表するワトソン博士



質疑応答

## 6月17日 リオ+20 (リオデジャネイロ) での講演会と質疑応答



講演会



質疑応答



# 第21回ブループラネット賞 受賞者記者発表

6月17日(現地日付)、リオデジャネイロで開催された「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」のジャパンパビリオンにおいて、田中理事長、林良博選考委員長、鮫島専務理事が出席し、第21回地球環境国際賞「ブループラネット賞」の受賞者記者発表を行いました。

田中理事長の主催者挨拶に引き続き、リオ+20に参加し来場した本年度受賞者が林選考委員長から紹介されました。

本年度の受賞者はブリティッシュ・コ



受賞者記者発表会場



本年度受賞者のラブジョイ博士と握手する林選考委員長

ロンビア大学教授、FRSC(カナダ王立協会)フェローのウィリアム・E・リース教授(カナダ)とグローバル・フットプリント・ネットワーク代表のマティス・ワケナゲル博士(スイス)両名の共同受賞、ならびにジョージ・メイソン大学環境科学・政策専攻教授のトーマス・E・ラブジョイ博士(米国)です。

上記3名の受賞者は、昨秋に世界中のノミネーターから推薦された候補者に対する選考委員会および顕彰委員会での審議を経て、本年4月の理事会・評議員会で決定されました。



受賞の辞を述べる本年度ブループラネット賞受賞者



田中理事長と本年度ブループラネット賞受賞者



ジャパンパビリオン



## 第21回ブループラネット賞 受賞者紹介

### ウィリアム・E・リース教授(カナダ) マティス・ワケナゲル博士(スイス)

[リース教授]  
ブリティッシュ・  
コロンビア大学教授,  
FRSC (カナダ王立協  
会) フェロー

[ワケナゲル博士]  
グローバル・フット  
プリント・ネット  
ワーク代表



リース教授

ワケナゲル博士

#### 【受賞理由】

世界のほとんどの国は自国内にどのくらい「自然」があり、それをどれだけ消費しているのかを知らずにいる。それは燃料計の無い飛行機で飛ぶのと同じくらい、危険なことと言える。リース教授とワケナゲル博士は、エコロジカルフットプリントの概念に基づいて、世界各国および世界全体の自然資源(生態系サービス)の収支を計算し、ほとんどの国が自然資源を過剰消費していることを明らかにした。現在、人類が1年間に使用する自然資源を地球が再生するには、1年6か月かかる。このように、エコロジカルフットプリントを使えば「自然」の生産量に対する人間の消費量を比較することが可能となる。「フットプリント(足跡)」という視覚に訴える例えを用いた結果、直感的な分かり易さもあって、フットプリントは世界で最も有名かつよく使われる持続可能性の尺度となった。フットプリントは、人間が消費する自然資源に対し生態系が提供し得る量を比較するユニークな尺度である。そして生命を脅かす持続可能性ギャップ(過剰消費)をはっきりと示し、そのギャップを閉じるために取るべき行動を示唆している。

### トーマス・E・ラブジョイ博士(米国)

ジョージ・メイソン大学  
環境科学・政策専攻教授



#### 【受賞理由】

ラブジョイ博士は生物多様性の概念がまだ生まれていなかった時代に独自の方法によるアマゾンの熱帯雨林での画期的な実地調査を実施し、そこで得られた大きな成果に基づいて、種の減少という事実とその主なメカニズムを明らかにした。博士はこの実地調査により、人間の行動がどのように生息地の分断を引き起こし、生物多様性を危機的な状況に追い込んだのかを初めて学術的に解明することに成功した。そして博士は、一連の研究から得た生態系に関する深い見識に基づき、初の「種の絶滅予測」を発表した。以来一貫して絶滅危惧種の増加を食い止めるための手段を指摘および提案し、多数の学術機関や学会に大きな影響を与えるとともに、今や主流となった生物多様性の概念に基づく自然環境の保護に向け、その基盤作りに貢献している。

### 第21回ブループラネット賞 表彰式典 ならびに 受賞者記念講演会

第21回受賞者をお招きして、10月31日(水)に表彰式典を東京會館で開催いたします。翌11月1日(木)には、受賞者記念講演会を国際連合大学ウ・タント国際会議場で開催いたします。

### 公益財団法人 旭硝子財団

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3  
サイエンスプラザ 2階  
TEL (03) 5275-0620 FAX (03) 5275-0871

URL <http://www.af-info.or.jp>  
E-MAIL [post@af-info.or.jp](mailto:post@af-info.or.jp)